

2023 年度
(令和五年度)
学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：令和 5 年 4 月 1 日
至：令和 6 年 3 月 31 日

創立 1960 年・東京都知事認可・専門士称号付与校

東京英語専門学校

1. 学校関係者評価

(1) 目的

自己評価の評価結果の客観性、学校運営の改善と発展を目指し、学校評価（自己評価・学校関係者評価）を実施する。社会の変化に対応した教育活動および学校運営について、評価を活用し、組織的・持続可能な学校運営を目指し、改善を図る。

(2) 評価項目

- 1.自己評価の内容が適切かどうか
- 2.自己評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切かどうか
- 3.学校の重点目標や具体的方策などが適切かどうか
- 4.学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

(3) 評価期間

2023 年度（2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日）

(4) 学校関係者評価委員会の構成

① 学校関係者評価委員 2 名

	氏名	所属	期間
1	坂井 学	衆議院議員 学識経験者	5 年
2	錦織 晴海	株式会社千葉石材本店会長 民間企業	5 年

② 学校評価委員会

	氏名	所属
1	Thom Burns	東京英語専門学校 校長
2	長野 立美	東京英語専門学校 副校長
3	片倉 直之	東京英語専門学校 総務部

(5) 実施方法

1. 「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って、当該年の学校運営に関する学校が自ら行った自己評価について、オンラインシステム等を利用して学校運営の改善に役立つ学校評価を外部の学校評価委員の率直な意見を記載する。

2. 評価点数

4 点：適切 3 点：ほぼ適切 2 点：やや不適切 1 点：不適切

2. 評価結果

(1) 教育理念・目標

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 現状

語学力を高めることだけでなく、国際交流も深め、グローバルな人材を育てるという教育目標をかかげている。教育理念及び目的を定めた人材育成および英語力の増強にさらに力を入れている。

② 課題と改善策

体験入学等で保護者への周知を心掛けている。全教職員に教育理念・目標への理解を深めてもらうようにする。

③ 学校関係者評価委員会による評価

人材育成として、語学力の向上に加え、学校行事を通じて国際交流も盛んである。コロナの影響で停滞していたが、次第に復活しているのは喜ばしいことである。

(2) 学校運営

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 現状

理事会による学校運営の方針が発表され、理事長、経営陣および、総合事務局長が具体的な方針を職員と共有し具体化する。

学校の運営方針、各教育活動における意思決定、学生指導方針等を、定期的に情報共有している。

② 課題と改善策

役職と業務の専門は決まっているが、少ない人数なのでスタッフ間の協力が必要。

情報共有および、時差出勤やシフト調整が、学校運営に支障をきたすことなく、スムーズに協力できる体制を目指す。

③ 学校関係者評価委員会による評価

コロナ禍において確立されたテレワークのシステムを、今後も活用できるような工夫を検討するとよい。

(3) 教育活動

4 点：適切 3 点：ほぼ適切 2 点：やや不適切 1 点：不適切

評価項目	評 価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野にいける業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4

・関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①現状

個々を重視し、英語を使ったビジネススキルおよびコミュニケーション能力を総合科目および専門科目で、段階的かつ体系的に語学力の増進を図っている。

定期的な学生面談により、指導体制や授業評価等を実施し、教務部長が改善に着手している。能力別スキル別編成により、半期ごとにクラスの再編成を実施し、効果をあげている。

また、TOEIC 等の資格取得やスコアアップを目指した IP テスト受験を義務化しており、クラス編成にも役立てている。

② 課題と改善策

コロナ禍の経験を生かし、学習や生活環境で孤立した学生にいち早く気づけるよう、教職員間での連携を深める努力がさらに必要である。

イベントや面談などの開催を工夫して定期的に個別に実施する頻度を高くする。

③ 学校関係者評価委員会による評価

カリキュラムに独自性があり、能力別・スキル別のクラス編成で実践的に通用する語学を習得できる環境が整っている。

半期ごとにレベルアップもでき、実力アップや資格取得の指導体制は評価できる。

(4) 学修成果

4 点：適切 3 点：ほぼ適切 2 点：やや不適切 1 点：不適切

評価項目	評 価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	2
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 現状

学生に対し、就職に関するセミナーに積極的に参加、情報収集をするよう指導している。退学率の軽減に関し、個別相談や LINE でのコミュニケーションを増やすなどして、留学生の在留管理を工夫している。

② 課題と改善策

学生の目的に合わせた少人数または、個別指導を実施している中で、相談しやすい良い環境を維持してきたが、コロナ禍により、学生との面談の機会が少なかった。今後は面談を定期的に実施する。

③ 学校関係者評価委員会による評価

コロナの影響、進路変更などで退学者が増えた経緯がある。今後は退学者減少へ向けて、学生へのさらにきめ細かい対応への努力を期待する。

(5) 学生支援

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	2
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2
・関連分野における業界との連携による後の再教育プログラム等を行っているか	2

① 現状

就職担当を配置し、企業および学内就職説明会や選考会を実施して効果を上げている。定期的な学生面談で個々の進路および就職相談に応じている。
学生支援機構の奨学金等の申し込みについて専属の職員を配置して丁寧にサポートしている。学校独自の減免制度も学生支援の一環として継続している。

② 課題と改善策

学生支援強化のため LINE を活用し、学生のアルバイト調査、低出席者の追跡を定期的に行っている。職員が情報を適切に共有し、迅速に対応できるようにする。学外での研修に参加するよう心がける。

③ 学校関係者評価委員会による評価

定期的に個別相談を実施、成果を上げていると認められる。学校独自の減免制度を通じて学生およびその家族の支援も充実していることも、高く評価できる。
外部組織との連携取り組みについては今後に期待したい。

(6) 教育環境

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評 価
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

① 現状

各教室に DVD だけでなく、英語学習に適した大型モニターが設置されており、Wi-fi も利用できるよう整備した。LIVE な動画等を活用した授業の実施のため、スピーカー等の音響施設を整えている。

災害時の避難場所の周知のほか、非常食と飲料水を備蓄している。

② 課題と改善方策

今後は、アメリカだけでなく、英語を母国語とする他国への海外研修を実施する。

③ 学校関係者評価委員会による評価

様々な工夫により、教育環境を整備している点は評価したい。

(7) 学生の受入れ募集

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評 価
・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学生学納金は妥当なものとなっているか	4

① 現状

ホームページの定期的な改定および学校案内の無料配布、さらに来校する学生及び保護者に対し、納得するまで相談に応じるなど、学生募集に関する情報提供に重点を置いている。入学までに希望者には、複数回、体験入学や個別相談に参加できる仕組みとな

っている。

当校独自の奨学金及び減免制度で、入学予定者の財政的負担を軽減している。

② 課題と今後の改善策

コロナ禍により留学生募集が低迷していたが、コロナの終息とともに留学生の出願が増えてきた。留学生募集に重点を置き、コロナ以前の状態に戻したい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

コロナ禍もあったが、学生募集活動は一定の成果を上げていると認められる。学納金に関しては低い水準なのに、それに多くの減免制度が適用されているので、見直してもよいと思う。

(8) 財務

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評 価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 現状

18才人口減に加えコロナ禍により、日本人学生、外国人留学生ともに減少、定員に満たない年が続いていた。しかし、最低限の入学者は確保できており、過去の蓄積もあり、財政基盤は安定して推移してきた。

収支動向はバランスの取れたもので、銀行・信用金庫からの借入金ゼロ経営を継続している。

決算の会計監査は適正であり、当該税務署の定期的調査も信頼が高い。

② 課題と今後の改善策

コロナ禍も終息したので、今後は留学生募集に力を入れる。

日本人募集は18歳にこだわらない、社会人の広い層からの募集を強化する。

経費に関しては、節約を徹底し、支出の妥当性を常に精査する。

③ 学校関係者評価委員会による評価

個人立であるが、安定した経営を長年にわたり健全に維持している。

コロナ禍による学生減でも、健全経営を継続したとは信頼に値する。

(9) 法令等の遵守

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

① 現状

各種関係法令に遵守しており、コンプライアンス精神の周知徹底に努めている。個人情報保護については、入学要項およびホームページにも明文化されており、周知と管理を適正に行っている。

② 課題と今後の改善策

学生の個人情報保護に関して、一部、適切でないものがあったが、こちらは改善が進んでいる。さらに推進したい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

東京都および中央区の私学部の指示に従い、適正な管理体制を維持していると評価する。法令に関する事項は顧問弁護士に逐一相談していることも信頼がおける。

(10) 社会貢献・地域貢献

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む受託等)を積極的に実施しているか	3

① 現状

社会貢献であるボランティア活動等は、個々の学生の判断に任せている。
緊急時には、地域に学校の施設を提供する準備がある。災害時の非常食、飲料水、防災用具も保管している。

② 課題と今後の改善策

学生本人の希望もあるが、出来るだけ地域の人々と触れ合う機会を作っていくべきと考える。学校周辺の美化運動など出来ることを実行していきたい。
そのような活動を通して、学生の母国の異文化と日本文化の交流に貢献していきたい

と思っている。

③ 学校関係者評価委員会による評価

学生の本分は修学であるが、可能な限り、ボランティア活動に参加できる機会をつくるとよい。

地域貢献に関しては、コロナ禍の影響もあったのか、あまり進展が見られない。今後、前向きに取り組むことを期待する。

(11) 国際交流（必要に応じて）

4点：適切 3点：ほぼ適切 2点：やや不適切 1点：不適切

評価項目	評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

① 現状・課題と改善策など

在留資格を持つ多国籍の留学生を受け入れており、卒業後、母国や日本で国際貢献に従事する学生も多い。VISA取得のサポートは手厚い。また、日本での生活指導も定期面談等で行っている。教師は担当教科に対する学習支援を惜しまない。

② 日本の文化やルールをあまり理解していない留学生も多く、それに起因するトラブルが発生することがある。日本の法律を遵守させるためにも、さらなる指導は必要。

③ 学校関係者評価委員会による評価

適正校を継続していることから留学生の管理体制は、真摯にかつ適正に行われていると判断する。